シラバス参照

開講年度	2019
講義コード	032006JA
科目ナンバー	[APS]-[CSM]-[300]
開講セメスター	夏セッション1
講義名・クラス名	教育と社会JA
担当教員	本間 政雄
備考	注意：夏セッション1は8月1日（木曜日）から8月5日（月曜日）に開講されます。 なお、8月3日、4日は土曜日、日曜日ですが、授業は実施されます。 また、上記とは異なる期間に授業が実施される場合もありますので、必ずシラバスを全て確認してください。 Note: The period for Summer Session I this academic year is August 1st – August 5th, Thursday – Monday. Lectures will be held on August 3rd and 4th, regardless of whether this day falls on a weekend. Some subject can be held in the different date from above period. Please make sure to confirm the schedule and content in the syllabus. セッション期間の科目は、卒業予定日を含む最終セメスターでは履修できません。 No session courses may be registered during a student's semester of scheduled graduation.

講義分野	教育、社会学 当フィールドの設定は、関心のある分野に該当する科目を検索、閲覧するものです。興味のある分野を示しているだけであって、卒業に必要な単位区分とは関係がありません。単位区分については、ハンドブックを参照の上、履修するようにしてください。
履修の目安	最新の「文部科学白書」（同省のHPから閲覧可能）の教育関係部分を通読しておくこと。憲法、教育基本法、学校教育法を通読しておくこと。 論理的な文章を書く能力が求められます。
授業概要	1）一国の教育制度、教育のあり方は、その国の社会、文化、歴史の所産であり、同時にその国の社会のあり方に大きな影響を与えます。わが国では、江戸期にかなりの普及を見た寺子屋や藩校を基盤に、明治政府が「邑に不学の戸なく」との方針の下に、初等普通教育の普及に全力を注いできました。その結果、明治維新からわずか30年後の19世紀末には、国民皆教育をほぼ実現するという未曾有の成果を挙げることができました。 2）こうした初等教育の急速かつ広範な普及は、「富国強兵」という明治政府の近代化路線を担う人材を育成したという点で、わが国が欧米列強と肩を並べる強国に発展する上で決定的な役割を果たしたということができます。 3）わが国は、太平洋戦争により徹底的に破壊され国土は荒廃の極に達しました。しかし、敗戦後わずか20年で経済復興と高度経済成長を果たし、新幹線の開業と東京オリンピックの開催（1964年）、大阪万博の開催（1970年）を経て、1980年代には世界第二位のGDP大国となり、「Japan as No. 1」（Ezra Vogelハーバード大学教授）と賞賛されるまでの奇跡の経済発展を遂げました。 4）こうした戦後の経済復興・発展を支えた重要な要因の一つが、米国の指導による戦前の「複線型」から「単線型」の教育制度への転換であり、その結果としての後期中等（高校）教育の普及、次いで高等教育の普及による高度人材の育成でした。 5）しかし、今日の教育は、学力や学修意欲の低下、いじめや校内暴力、「モンスター・ペアレンツ」などに見られるようなモラルの崩壊などの問題や、ICTの活用、グローバル人材の育成、財政難など多くの課題にも直面しています。 6）戦後、中央教育審議会や臨時教育審議会などにより、こうした課題が取り上げられ、改革案が提起されてきましたが、保守的な教育界の反対などに遭って改革は遅々として進まない状況です。 7）このように、わが国の教育制度、教育のあり方は、長い歴史と伝統、文化の中から生まれてきたものであり、それらとの関係において考察しない限り十全に理解することはできませんし、今後の展開を予測することも困難です。 8）他方、一国の教育制度は、他国の文化や制度に関係なく、あるいはその影響を受けることなく成立したものでもありません。 9）それどころか、明治期であれあるいは戦後の一連の教育改革であれ、当時最も優れた制度と考えられた欧州や米国の教育をモデルに構想されたのです。 10）「グローバル化」が急速に進む現代の世界においては、教員や学生の国境を超えた移動が未曾有の速度で増加し、各国の教育制度は相互に影響を与えるようになりました。 11）従って、わが国の教育を理解するためには、もはや日本という「閉じた」世界だけから見るのではなく、グローバルな視点から見ることも必要になっています。 12）また、経済成長と自由貿易促進を謳う経済開発協力機構（OECD）や経済統合を目指す欧州連合EU）、さらには普遍性原則の下に教育に関する規範設定を行う国連教育科学文化機関（ユネスコ）も、教育の質保証などわが国を含む各国の教育のあり方に大きな影響力を持つようになっています。 本講義は、こうした認識の下に、わが国の教育制度、あり方を論ずることにします。

到達目標	本講義の到達目標は、 1）明治期以降、とりわけ太平洋戦争後の2度にわたる教育改革（戦後の米国主導の一連の教育改革及び中曽根康弘総理主導による臨教審の教育改革）の理念、目標、改革の内容、それらの社会的、経済的、文化的背景を理解すること。 2）現代の教育制度(正規の学校教育機関であるいわゆる「（学校教育法）１条学校」だけでなく、専門学校、職業訓練機関、民間や地方自治体、大学などが行う多様な講座・セミナー、企業内教育などまで包摂する)の多様な広がりとその背景を理解すること。 3）現代のわが国の教育が直面する課題（Challenge）と問題（Problem）を理解し、政府や教育機関が、課題にどう対応し、問題をどのように解決しようとしているかを理解すること。 4）教育のあり方においてわが国と際立った対照をなすフランスと対比しながら、わが国の教育のあり方を考えること。 5）主に経済協力開発機構（OECD）の統計・分析資料を用いつつ、わが国の教育が先進国の中でどのような位置にあるかを理解すること。 6）上記１～5を通じて、教育に限らず社会事象の分析に当たっては、自らの頭で考え、自らデータと事実を集めて分析し、自らの考えをまとめるという大学卒業生として基本的な知的習慣を身につけること。 7）併せて、自分の考えを論理的にまとめ、文章として表現する力の育成を目指します。
授業方法	講義と「グループ・ワーク」（GW、計6回）によって構成します。 ・講義は、学生からの質問やコメントを歓迎します。講義を聞きながら、疑問に思ったこと、よく理解できなかったことをメモするようにしてください。 ・GWは、所定のテーマについて、講師から簡単に「解題」（説明）を行った後、5～10名程度のグループに分かれて討議を60分行い、その結果をまとめ、1グループ5分程度で発表します。最後に講師が講評を行います。
毎回の授業の概要	第1回　講師のプロフィール（行政経験、国際経験、大学経営の経験、研究業績など）紹介の後、講義の概要と狙いを説明します。具体的には、教育と社会の相互関係に関する知識の獲得だけでなく、論理的な思考力、表現力、論旨の一貫した論文を書く力などこれからの社会を生き抜いていく上で必須の力の育成を目指します。グループ・ワーク（GW）を計4回行いますが、毎回のテーマ、進め方について説明します。さらに、成績評価の方法、欠席の場合の取り扱い、GWと講義受講の準備などについて説明します。（45分）1867年の明治維新以降の近代的教育制度の確立が、極めて短期間にそれが可能になった要因、背景を分析します。（50分） 第2回　明治維新以降の近代的教育制度確立のプロセスを概観し、西欧の模倣と日本の伝統への回帰を経て、わが国独自の教育制度の成立に至る状況を説明する。貴重な労働力が奪われると反発した国民の反対にもかかわらず、明治維新からわずか40年足らずの20世紀初頭に6年間の義務教育制度がほぼ100%の普及を見、以後中等教育、高等教育制度が確立していくプロセスを概観します。 第3回　太平洋戦争敗北（1945年8月）、連合軍（米軍）占領下における教育制度の全面的刷新・改革、複線型教育制度から単線型教育制度（6・3・3・4)への転換、多様な高等教育機関の統合再編による新制国立大学の発足、民主的市民の育成を目指した憲法、教育基本法の制定などを概観します。さらに、1970年代から80年代にかけての、量的拡大から教育の質的充実への転換、そして83年から始まる臨時教育審議会（臨教審）の4次にわたる答申を概観し、90年代以降の教育改革へのインパクトを説明します。 第4回　現代の教育課題の中心は、未曾有のスピードで進行するグローバル化、社会・経済構造の根底からの変革を求める科学技術、とりわけAI（人工知能）、ロボット、ビッグ・データ、情報通信技術、生命科学の進歩、少子高齢化、飢餓・内戦・テロなど地球的課題の深刻化という状況の中で求められる人材像を明らかにし、育成することです。そのための教育改革の状況を俯瞰します。 第5回　GW第1回　「ゆとり教育」の是非についてグループごとに議論します。 第6回　我が国の高等教育の現状を俯瞰した後、その課題、具体的には、ユニバーサル化に伴う教育の質の低下、グローバル化の遅れ、多様性の欠如、経営力の不足、閉鎖性などについて説明します。そのうえで、文部科学省はじめ政府がどのような政策を行っているか、それらの妥当性の検証も行います。 第7回　我が国の高等教育の課題の検証を続けます。具体的には、大学の設置認可に関する準則主義と認証評価の導入、高等教育の無償化、専門職大学の創設、大学の統合・再編、大学入試改革、23区規制、情報公開の強化などについて論じます。 第8回　GW第2回　国立大学の優遇策は、社会的公正の観点から正当化されるか？ 第9回　我が国の教育の在り方を客観的に見直すため、フランスの教育をベンチマークし、我が国の教育と比較します。フランス国家の成り立ち、基本理念（自由、平等、博愛）に始まり、多様性、個性重視の教育の在り方について説明します。 第10回　GW第3回　我が国の「横並び教育」（一斉進級主義、落第・飛び級なし、制服、集団行動、厳格な校則など）は世界に通用するか？ 第11回　国境を越える高等教育（留学生600万人時代の到来、学位の国際通用性、国際大学ランキング、EUの「ボローニャ・プロセス」、学生交流を促進する「エラスムス計画」、Brexit）の状況を俯瞰します。 第12回　OECD（経済協力開発機構）、UNESCO（国連教育科学文化機関）と日本。教育に力を入れている二つの国際機関の教育関係事業を概観し、我が国へのインパクトを説明します。 第13回　GW第4回　日本の教育の未来の姿 第14回　予備日 第15回　試験日　第1回の講義で提示する試験問題3問から2問を選択し、解答します。
予習・復習の内容と分量	受講前に、文部科学白書（同省HPから閲覧可能）最新版のうち、教育改革、初等中等教育、高等教育を中心に通読し、基本的な知識を得るとともに、教育行政上何が課題と考えられ、どのような政策が実行されているか理解する。（90分）GW終了後、議論を踏まえて、論点、自らの考えをレポートとして作成する。（各回90分）
成績評価方法	14回の講義とGW出席、期末試験、GW4回にかかるレポート提出を成績評価の条件とします。毎講義出欠をチェックし、2回以上欠席の場合は、GWレポート提出、期末試験の成績如何に拘わらず、「不可」とします。病気、就職活動によるやむを得ない欠席については、医師の診断書またはキャリア・オフィスの証明書を添えて、申し出てください。欠席した講義1回に関し、1テーマを個別に与えますので、GWレポートに準じたレポート提出によって出席扱いとします。（ただし、3回まで） レポート（60%）　GWで取り上げたテーマについて、自分の考えや意見をA4サイズで3ページ・2千字程度の長さ[表紙・目次・参考文献などを除く]のレポートを2編提出します。（GWのまとめではありません） 2編のレポートについて、論理的思考力、文章力、知識などを評価します。例年、小論文の書き方の基本をわきまえないもの（口語体で書かれたもの、文章の段落が不適当なもの、結論に至る論理が不明確なものなど）、参考書の要約に過ぎないもの、ウイキペディアを丸写ししたもの、他人のレポートを写したものなどが少なからず出ますが、これらには最低点をつけます。論文の作成方法は、図書館等で聞いてください。 期末試験（40%）3問から2問を選択し、回答します。講義の内容、GWのテーマの範囲から出題します。
多文化協働学修の実践方法	日本の教育の在り方を、一斉進級主義、飛び級・原級留め置き、制服・校則などを例にして、我が国と対極にあるフランスの教育と対比しつつ

	検討し、その特質を理解する。また、OECDとUNESCOの教育事業、例えば15歳時点の学力を国際的に比較するPISAや大学ランキングを例にとりながら、我が国の教育の在り方が他の国々と相互に影響を与えつつある状況を、講義及びグループ・ワーク(4回)を通じて理解させるようにします。
学生への要望事項	出席票の「コメント」欄に、講義について意見や感想、疑問、改善してほしい点などを自由に記入して下さい。 日ごろから、教育に関する新聞記事や報道、論説を、関心を持ってフォローして下さい。
テキスト備考	文部科学省「文部科学白書」各年版(http://www.mext.go.jp/)
テキスト(授業を履修する上で、購入が必須となる書物)	
参考文献備考	
参考文献(図書、視聴覚資料)＊ライブラリーリザーブコーナーに設置	

1.	書名＊	近代化と教育					ISBN13桁＊	9784130050395
	著者名＊	永井道雄　著	出版社	東京大学出版会	出版年	1969年	版・シリーズ・巻	
	注釈	明治維新から1960年代の高度経済成長期までの教育の発展と近代化の過程を検証した古典的名著。						
2.	書名＊	イギリスの大学・ニッポンの大学：カレッジ、チュートリアル、エリート教育					ISBN13桁＊	9784121504302
	著者名＊	刈谷剛彦	出版社		出版年		版・シリーズ・巻	中公新書ラクレ；430．グローバル化時代の大学論；2
	注釈	日本の大学の在り方を、英国の大学と比較しながら考えた興味深い観察記。						
3.	書名＊	高学歴社会の大学―エリートからマスへ―					ISBN13桁＊	9784130060592
	著者名＊	マーチン・トロワ、天野郁夫・喜多村和之訳	出版社	東京大学出版会	出版年	1976	版・シリーズ・巻	
	注釈							
4.	書名＊	試験の社会史－近代日本の試験・教育・社会					ISBN13桁＊	9784130530750
	著者名＊	天野郁夫	出版社	東京大学出版会	出版年	1983	版・シリーズ・巻	
	注釈							
5.	書名＊	かわる社会かわる教育：成熟化日本の学習社会像					ISBN13桁＊	9784842085142
	著者名＊	天野郁夫	出版社	有信堂高文社	出版年	1989年	版・シリーズ・巻	
	注釈							

参考文献(雑誌、年鑑白書等)	
備考	
担当教員研究室電話番号	
担当教員E-mailアドレス	kokusaihaanalyst@yahoo.co.jp

E-Book および 関連ページ	1.	文部科学省ホームページ	